

北海道佐呂間町竜巻災害調査特別委員会 報告（第1報）

委員長 浅井 康文

浅井康文*、森 和久*、井上弘行*、上村修二*、鈴木 靖**、伊藤 靖***

*札幌医大高度救命救急センター、**北海道庁総務部防災消防課、***北海道庁保健福祉部

はじめに

平成18年11月7日に北海道常呂郡佐呂間町において竜巻災害が発生した。佐呂間町は北海道の北東部に位置し、オホーツク海に面した人口6,600人余りの漁業・農業の町である。竜巻の規模はFujita Scale 3で日本観測史上最大規模と推定され、竜巻発生地を中心に甚大な集中的被害をもたらした。11月13日に日本集団災害医学会が佐呂間竜巻災害調査委員会を現地に派遣し、竜巻による被害の実態や被災時の医療救護活動について調査を行ったのでその概要を報告する。

日本集団災害医学会 佐呂間竜巻災害視察

団長	札幌医科大学付属病院 高度救命救急センター長	教授	浅井康文
	札幌医科大学付属病院 高度救命救急センター	講師	森 和久
	札幌医科大学付属病院 高度救命救急センター	助手	井上医師
調査協力	札幌医科大学付属病院 高度救命救急センター	大学院	上村修二
	北海道庁総務部防災消防課		鈴木 靖
	北海道庁保健福祉部		伊藤 靖

行程

平成18年11月13日（月）

出発 丘珠空港 ANA 4865 便 8時55分発

女満別空港 9時45分着

遠軽地区広域組合の公用車で佐呂間災害現場視察

遠軽地区広域組合 01584-2-2050 （担当者：消防本部 佐竹係長）

10時30分 被災地到着 現地対応 ・岩田消防本部次長

・小森消防課長

・岡本佐呂間支署長

11時40分 視察終了

12時00分 遠軽地区広域組合消防署 佐呂間支署到着

昼食

13時00分 佐呂間支署にて被害説明
14時30分 視察終了（佐呂間支署出発 本部車両）
15時30分 女満別空港到着
女満別空港発 JAL 2716 便 16時10分発
新千歳空港着 17時00分着

竜巻被害の状況

人的被害

死者 9名

負傷者 26名（重症9名、中等症3名、軽症15名）

死者9名（若佐コミュニティーセンターで検死、佐呂間町町民センターに安置された）

負傷者の搬送先及び治療数

北見赤十字病院 救急車による搬送 6名（端野救急隊2名） 軽症2名
（北見救急隊2名） 中等症2名
（佐呂間救急隊2名） 重症1名、軽症1名
自力による来院 2名 軽症2名

北見中央病院 救急車による搬送 1名（湧別救急隊） 中等症1名

遠軽厚生病院 救急車による搬送 4名（佐呂間救急隊2名） 重症2名
（生田原救急隊1名） 重症1名
（湧別救急隊1名） 軽症1名
自力による来院 1名 軽症1名

遠軽共立病院 救急車による搬送 3名（佐呂間救急隊3名） 重症2名、軽症1名

曾我病院（上湧別） 救急車による搬送 2名（遠軽救急隊2名） 重症2名

若佐コミュニティーセンターにて佐呂間厚生病院の看護師が治療 7名 軽症7名

住家被害 全壊15棟 半壊8棟 一部破損14棟
非住家被害 全壊18棟 一部破損 7棟

考察

竜巻発生は13時20分で、13時29分に現場からの携帯119番通報で消防覚知された。
13時40分に佐呂間町対策本部が設置され、遠軽地区広域消防組合および近隣の北見消防本

部より 6 台の救急車が出動し 13 時 45 分より順次、災害状況把握、トリアージ、救助搬送が開始された。13 時 55 分に現地対策本部が設置され、21 時 30 分に被災者の捜索終了し、21 時 42 分に対策本部が解散となった。

消防の出動人員、出動車両は消防職員 53 名、団員 72 名、消防車両 19 台であった。

被害状況は、死者 9 名、負傷者 26 名であった。死者の死因の多くは頭部外傷によるもので町内の医師が竜巻発生 40 分後に現場で死亡確認を行い救急搬送はなされなかった。負傷者は重症 6 名（うち重体 1 名）、中等症 3 名、軽症 17 名であった。重症、中等症を含む 16 名が近隣の遠軽町、上湧別町、北見市内の 6 病院に分散し搬送され、他の軽症者 10 名は独歩で佐呂間町内の病院を受診した。家屋等損壊 103 棟で全壊 47 棟、半壊 11 棟、一部損壊 45 棟であった。

被災地に対する医療支援は、竜巻発生直後より首相官邸の危機管理センターに情報連絡室が設置され、同時に厚生労働省から北海道内 DMAT に被害状況が提供された。室蘭日鋼記念病院、旭川医大より DMAT が同日午後 5 時過ぎに陸路で自主的に出発したが、現地到着前に現地対策本部が解散となり活動はなかった。

以上